



文学研究科長
図書館情報学専攻
林 博司教授

専門：情報生物学

1966年 名古屋大学大学院理学研究科
生物学Ⅱ類専攻博士課程修了
理学博士 名古屋大学名誉教授

2002年 愛知淑徳大学大学院文学研究科教授

「言葉」を媒体として 新旧二つの領域から 人間にアプローチする。

文学研究科は1989年(平成元年)、愛知淑徳大学初の大学院として誕生しました。当初は修士課程のみで、2年後に博士課程を開設。これまでの19年間に前期課程修了者213人、後期課程満期退学者61人、課程博士2人、論文博士6人を送り出してきました。この4月から大学院が再編されるのに伴い、文学研究科は国文学と図書館情報学の2コースとなり(ともに文学専攻)、新たに共通科目が設置されるなど、より充実した教育プログラムが動き出します。

文学研究科は 言葉を扱う研究領域

久保教授 通常、文学研究科は文学系のコースだけで組織しますが、本学には図書館情報学があるのが特色です。文学研究科は英語ではGraduate School of Lettersです。レターは文字ですが、複数形にすると文学になります。文字とは言葉の記号。その意味では、文学研究科とは、言葉を扱う研究領域だということができ、国文学専攻も図書館情報学専攻も、言葉にこだわり抜こうとする姿勢において、共通性があります。

林教授 学問は基本的には言葉で成り立っています。思想でも何でも言葉で作りますから。図書館情報学専攻では、情報のさま

ざまな扱い方、保存の仕方、生み出し方や加工などを扱っています。

久保教授 国文学専攻は極めてオーソドックスなカリキュラムです。古代、中世、近世、近代、現代、日中比較、国語学というように、各時代・ジャンルを一通り網羅していて、それぞれに専任教員がいます。普通の大学では、これだけの教員を揃えられないはずで、地域の高い評価を得た短大国文学科以来の伝統が、ここに生きています。

林教授 図書館情報学専攻の特徴としては、毎週行っている抄読会が挙げられます。これは教員と院生全員が出席して、その週の担当者が読んで英語のオリジナル論文を紹介するものです。各分野の専門の先生からアドバイスを受けたら、質問を受ける



ことで別の見方があることを知ったりします。理系では普通に行われていますが、文系では珍しい試みで、英語の情報をうまく利用することの大切さが分かると思います。

多彩な経歴の入学者、 多彩な学びの形態

林教授 今日の参加者は社会人の院生が多いのですが、全体では学部から来る人の方が多いでしょうか。

久保教授 そうですね。学部から持ち上がりで進学する学生が中心ですが、一方他大学からの入学者も少なくありません。

現在は社会人の方のために5時間目6時間目という夕方時間帯に授業を行ったり、入学時期も4月と10月の



左より、
英文学専攻 河口和子さん(博士後期課程3年)
国文学専攻 斉藤孝さん(博士後期課程3年)
細江葵さん(博士前期課程1年)



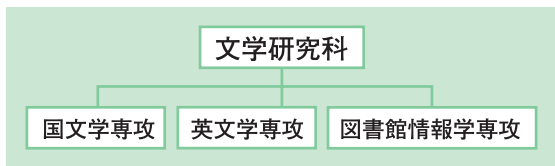
図書館情報学専攻
左より、田中聖子さん(博士前期課程1年)
若杉亮平さん(博士後期課程1年)



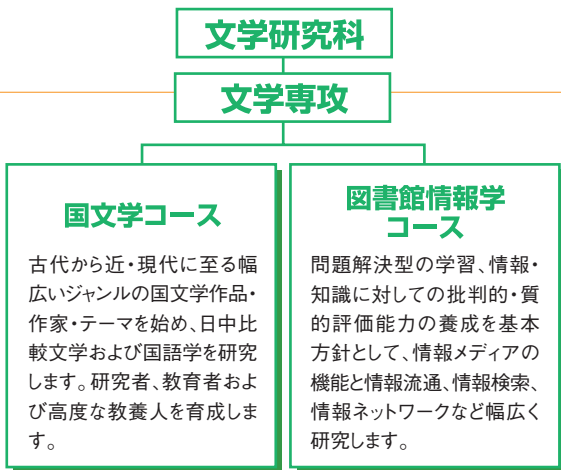
国文学専攻主任
久保朝孝教授

専門：国文学(中古)
1982年 早稲田大学大学院文学研究科
日本文学専攻博士後期課程満期退学
1997年 愛知淑徳大学大学院文学研究科教授

●現在の文学研究科



●2008年4月からの文学研究科



国文学コース

古代から近・現代に至る幅広いジャンルの国文学作品・作家・テーマを始め、日中比較文学および国語学を研究します。研究者、教育者および高度な教養人を育成します。

図書館情報学コース

問題解決型の学習、情報・知識に対する批判的・質的評価能力の養成を基本方針として、情報メディアの機能と情報流通、情報検索、情報ネットワークなど幅広く研究します。

2回になって、学修の機会は広がります。入つて来る方も、現職に就きながらとか停年退職された方とか、さまざまですね。

林教授 図書館情報学専攻も同じです。多彩な経歴の人材が多いので、抄読会でもさまざまな面白い意見が出ます。

久保教授 仕事を続けながら通うのは大変なようです。ただ、最近、国と自治体が教員の休職制度を設けましたので、1〜3年間休職している間にマスターコースを修了して、教職の専修免許を目指す現場の先生が増えてきました。

田中さん 私はその制度を利用して来ていますが、勤めていた鈴鹿市では、まだほとんど知られていない制度です。以前は教育委員会から斡旋が来た

大学へ1年間勉強に行くという制度がありました。休職して大学院へというのは始まったばかりですね。

林教授 本学を選ばれたのは。

田中さん もともと小学校で司書教諭として仕事をしていたが、もっと専門的に図書館のことを学びたいと思った時、その目的に合っていたのが愛知淑徳大学でした。

斉藤さん 私は退職後、これからどうしようと考えた時、再び大学という道もあると思い、最初は聴講生として通っていました。もともと大学では心理を学びましたが、卒業後は社会科の教員になったので、それらとは全く違う分野を勉強しようという国文学科を選びました。いくつかの大学の教員の層の厚さを調べましたが、本学が抜きんでいたので、ここにしました。

河口さん 私は愛知淑徳大学の英文学科を卒業後、大学院へ入り、修士まで進みました。その後、社会へ出て、結婚、出産、留学をしたのですが、やはり深く勉強したいと思ったのと、現在は博士の学位を持つ人材が求められる風潮になってきていることもあって、3年前に戻ってきました。まだ子育て中ですが、家族を始め周囲の協力があるので続けられるのは幸せです。

若杉さん 私は大学から通って、7年目になります。卒論を書き始めた頃から、これでは中途半端なのでもっと続きをやりたいと、大学院へ進みました。でも修士論文を書いている時も、これだとやりたいことの相当手前で

終わってしまうと思う、後期課程で続けたいと思いました。

細江さん 私も学部時代の3年の時には大学院進学を決めていました。教職を取っていたこともあって時間を取られ、自分が研究する時間が全然ありませんでした。今は学部時代と比べて時間があるので、研究は進んでいると思います。

指導教員と院生は1対1で、細やかな対応を実現

久保教授 研究科に進んで、気付いたことなどはありますか。

河口さん 他大学の方と話をすると、愛知淑徳は指導教員が院生と1対1で細やかな指導をしてくれるからいいねと言われます。私の研究指導担当の大野光子先生は、有名な研究者や作家を呼んでよく講演をしてもらうのですが、私は院生ということで、その研究者や作家の方と親交を結ぶことができます。とても貴重な体験だと思います。

久保教授 本学はアイルランド文学研究の拠点ですからね。

河口さん 大野先生のおかげです。

田中さん こちらで勉強するようになって、教員の時は視野が狭かったなと思うようになりました。図書館情報学専攻にはいろいろな専門分野の先生がいらっしゃるの、さまざまなことを学び、視野を広げたいと思います。



英文学専攻 博士後期課程3年
河口和子さん

研究テーマ「現代アイルランド文学(演劇)」。
アイルランドへ留学中、劇作家ブライアン・フリー
ールの作品を見て感動し、フリーールを研究したいと
思うように。現在は、彼の作品に表れるアイルラ
ンド人のアイデンティティーを研究しています。
昨年9月、指導教員の大野光子先生の監修で『ア
イリッシュハーブの調べ』という訳書を出版しま
した(p9参照)。



国文学専攻 博士前期課程2年
細江葵さん

研究テーマ「高村光太郎の身体観—手の表現
を中心に」。
高校の国語の授業で光太郎に出会って以来、
研究対象として追い続けています。身体観とい
う視点から、彫刻と詩をまたぐ新見解を提示し
たいと、このテーマを選びました。
国文学専攻の先生方は、個性豊かで、それぞれ
指導方法が異なり、さまざまな視点から研究す
ることができます。

国文学専攻 博士後期課程3年
斉藤孝さん



研究テーマ「芭蕉の連句」。
連句という特別な形式の歌について理解する
とともに、芭蕉の連句そのものをよく解釈する
ようになりたいと思い、テーマとして選びました。
高校の社会科の教員を退職後、愛知淑徳で2年
聴講したのち、文学研究科へ入学。国文学専攻
は、日本の伝統である「国文」を大切に、正面
から追究していることがユニークだと思います。

基礎的な学問はしんどいし目立ちませんが、
ないと困ります。——林教授

文学は全ての学問の基礎であると同時に、
人間探求の学問でもあります。——久保教授

修了後の進路は、中高の教員、
一般企業、研究者など

久保教授 修了者の進路で多いのは、

国文学専攻だと教員が多いですね。
中学・高校だけでなく、小学校の先
生になる人のほか、大学教員として
母校の教壇に立っている人もいます。
一般企業に行く人のほか、予備校や
学習塾の先生の需要も、結構高いで
すね。

河口さん 英文学専攻では、前期課

程だけの方は一般企業に就職する方
や教員になる方が多いようです。後
期課程まで進む人は、やはり大学の
講師として、常勤なり非常勤なりで
勤める方が多いと思います。

林教授 図書館情報学専攻は中高

の教員、司書教諭のリーダー的な立
場になる方のほか、大学の教員として
残る方もいます。一般企業ではコンピ
ュータの知識を生かして、システムエン
ジニアとして仕事をする人もいます。

若杉さん 私は将来は研究者とし

て大学に残りたいと思っています。修
士から博士へ進む時、指導教員から

「そういう覚悟があるんだよね」と聞
かれ、「そのつもりです」と答えまし
た。

前期課程の2年間は

勉学に打ち込んでほしい

久保教授 院生には、特にマスターコー

スの2年間はひたすら勉学に打ち込
んでほしいですね。寝食を忘れてでも
勉強してほしい。マスターで研究
方法を身に付けて、ドクターで研究
成果を挙げていくのですから、この2年
間にどれだけ勉強したかで、将来が決
まるといってもいいでしょう。

ドクターになると授業は制度的には

週に1回だけです。時間には自由
になります。その時間に非常勤講師
をするなど、食べるための仕事をする
ことになると思います。マスターの
間はまず集中して勉強してほしいで
すね。

斉藤さん 私はまあ2年間、一生懸

命勉強したと思います。しごかれま
したし(笑)。

久保教授 斉藤さんは経済的に余

裕がある分、打ち込めましたよね(笑)。

細江さんは。

細江さん 実はアルバイトをしてい
ます。専門書を買うためです。

久保教授 1冊1〜2万円はします

からね。専門書は手元に置いておき
たいから、そのためのバイトは仕方ない
かもしれません。

河口さん いったん社会に出ると、マ

スターの2年間は本当に貴重な時間
だったと思います。勉強できる時に
しっかり勉強しておかなければと思
います。

若杉さん 抄読会で論文を読む担

当が、月に一回程度回ってきます。マ
スターの時は、自分の修士論文に関連
する論文なのでいいのですが、結構準
備に時間を割かれて大変でした。

田中さん 私は通学で2時間かかる

上、大学院の授業のほかに、図書館司
書の資格を取得しようという学部の授
業に週5時間出ています。今、修士論文
の準備をしています。平日は自分の
勉強にじっくり取り組むのは難しい
状態です。本当なら、現場に戻った時
に役に立ちそうなポルトガル語やコン
ピュータの授業にも出たかったです
が、それはあきらめました。

新・座談会シリーズVI
開学30周年を迎えて◎大学院を語る1
文学研究科

図書館情報学専攻 博士前期課程1年
田中聖子さん



研究テーマ「情報化社会を生きる子どもたちに必要な情報活用能力の育成のための指導体系」。
学校の中で真のメディアスペシャリストとして働くには、もっと専門的な勉強をする必要があると思います、2年間休職して学ぶことに。来年(平成21年)には、16年勤めた小学校教諭に復帰し、大学院での経験を生かしたいと思います。

図書館情報学専攻 博士後期課程1年
若杉亮平さん



研究テーマ「安全保障情報—情報学と安全保障」。
もともと軍事に関心がありましたが、マスメディアでのバイアスのかかった報道に疑問を持ち、このテーマを選びました。
図書館情報学専攻は比較的少人数なので、先生の指導を十分に受けられます。文系の研究科の割に理系的な部分もあり、面白いと思います。



国文学専攻 久保朝孝教授

図書館情報学専攻 林博司教授

指導教員に出会えたことが一番の収穫

久保教授 本学の文学研究科に入っ
てよかったことは何ですか。

細江さん 私は都築久義先生に出
会えたことです。やはり学部ゼミの
時から指導していただいています。が、
先生のスタイルというのはまったくの
野放しで(笑)、自分からやらないと
進んでいかない。でもその分、自分が
伸びていくのを実感できます。

河口さん 私も、指導教授の大野先
生に出会えたことです。先生のおか
げでアイルランド文学の素晴らしさ
を知り、どんなのめり込んでいきま
した。今では一生、研究を続けたいと
思うまでになり、とてもありがたく、
よかったです。

若杉さん 私は学部のゼミの時から
村主朋英先生についているのですが、
やはり先生と出会えたことです。あ
まり人がやっていないテーマに取り組
みたいと話した時、いいよと助けてく
だされたのがよかったです。

田中さん 私は、自分が勉強したかつ
た内容を学ぶことができたことです
ね。

斉藤さん 愛知淑徳へ来てよかった
ことはいくつかあります。院生1人に
対して1人の先生が指導していること。
院生発表会という、院生が刺激し合
いながら自分を伸ばせる制度がある
こと。それに国文学の蔵書が充実し
ていること。一度、他大学の図書館を

見せていただいたことがありますが、
愛知淑徳は本当にいい図書を持ってい
ます。

以前、昭和25年の雑誌のバックナンバー
が必要になったのですが、ちゃんと揃っ
ていた。半世紀前の雑誌ですよ。今す
ぐ役立つからではなく、いつか誰か使
うかもしれないから買っておこうとい
う、その大らかさがいいですね。

**4月からは2コースに改編
新たに共通科目を開設**

久保教授 今後、文学研究科に求め
られることですが、それは多分、「変
わらない」ということだと思います。

最初にお話ししたように、文学専攻
は言葉の研究する領域なので、すべて
の学問の基礎になります。でありな
がら、一方で文学作品を読み解いて、
人間とはどのようなものかを考えよ
うとする、つまり人間探求の学問です。
しかも国文学に限れば、これは非常
に歴史が古い。たとえば「源氏物語」
の研究史はすでに九百年を超えてい

ます。研究の方法は、一つの体系とし
て確固たるものがある。誤解を恐れ
ずに言えば、これを変えないという姿
勢が大切だろうと思います。それこ
そが文学研究科の存在意義だと思
います。

林教授 図書館情報学専攻も同じ
ですね。本当に基礎をなしている学
問は、しんどいし目立たちませんが、
ないと困ります。そういうベシッ
クなところを変わらさずやっつけける人が
いるということが、知恵を持った生き
物である人間の基本ではないかと思
います。

久保教授 今は多様な方々が大学
院に入りやすくなっていて、たとえば
短期大学卒の方も2年以上の社会経
験があれば、受験資格が得られます。
もちろん大学院には、研究後継者の
養成、職業能力の向上、高度な教養
人の育成という目的がありますが、
多彩な経歴を持った方が多く入るこ
とで、教員にとっても刺激となり、今
後は共に学び合いながら研究を深め
ていく場として機能していくのではな
いかと思います。

文学研究科は来年度から2コースに
なるのに伴い、4月から共通科目が新
設されます。博士前期課程の言語学、
比較文学、書誌学、文献学、出版文化
史の5科目で、それぞれの専門家を学
内外から招いて、充実した授業をし
てもらおうことになっています。これも
大きな特色となるでしょう。是非、意
欲のある方に来ていただきたいです。

